

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
土庄町立 土庄小学校	<p>変化に柔軟に対応できる校務分掌組織を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修組織 ・現教主任＝部門のコーディネーター ・学力向上 少人数指導、基礎学力、評価 ・総合的な学習の時間 課題学習、スキル学習、生活科 ・特別活動 話し合い活動、なかよし班活動 ・学年団研修 低学年団、中学年団、高学年団 <p>現教主任が校内研修を一人で背負い込むのではなく、それぞれの部門担当がリーダーとなり主任はコーディネイトする役に徹する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修においてこれまで現教主任の負担がかなり重かった。 ・教員の年齢構成もベテランの人数が多くなり、各自それぞれの専門分野をもって活躍している。 ・これからの校内研修は、自分の専門分野を互いに紹介しあいそれぞれを高めていくことにあるという意見からこのような型をとった。 ・今までの校内研修体制に慣れすぎて指導案検討や授業討議に力が入りすぎていたのでお互いに高めていく場面をどう作り出すかを考えていきたい。
池田町立 池田小学校	<p>本年度の課題解決のための委員会を組織し、課題解決のための推進役とする。</p> <p>< 現職教育推進委員会 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導部 ・道徳・特別活動・総合的な学習の時間部 <p>< 生徒指導委員会 ></p> <p>< 保健安全委員会 ></p> <p>< 人権・同和・障害児教育委員会 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特技を生かした担当を決め、責任をもって職務を遂行する。 <p>< ホームページ担当 ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、各委員会が活動を始めている。 ・充実したホームページになり、毎週更新することができている。 < 課題 > 複数の職員を担当として、異動後も継続できるようにする。
高松市立 仏生山小学校	<p>校長の諮問機関として働く専門委員会を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成及び実施、評価に関わる事項について学校評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、検討会を適宜開催し対応している。 ・生徒指導上の諸問題や危機管理に関する事項で継続性、緊急性等に応じて定期及び不定期に生徒指導委員会を開き対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容により適時性、必要性を考えた取り組みの面では効果的な対応ができています。 ・会議のあり方構成員等さらに検討の余地がある。
高松市立 下笠居小学校	<p>学校課題にあった組織の見直しを行い、課題解決での成果と気付きを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性や特性を生かした校務分掌を工夫することにより、意欲の喚起を促す。 ・年間の評価計画、観点や方法の検討をし、具体的な改善方法や実態と手順を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値化できる目標をできるだけ、設定し成果を確認しつつ指導を進めていく。
高松市立 川島小学校	<p>教育評価をもとにした適正な校務分掌組織の編成と改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に行った教職員による教育評価の結果をもとに、分掌組織を一部統廃合した。 ・各主任同士がサポートし合えるような分掌組織の編成を行うとともに、連絡・調整を密に行うことで、円滑な業務の遂行を図った。 ・各学年団が責任をもって分担した仕事を増やし、複数のアイデアを生かしながら実践を深める一方で、個人に過重な負担がかからないように配慮した。 	<p>< 成果 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度から始まった新しい週時程をより効果的に実践するためにその内容を新しい担当が機知に富んだアイデアを出して、実践している。 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れないために、準備等に時間がかかることがある。
東かがわ市立 誉水小学校	<p>個々の分掌を分類し組織化する。</p> <p>学校課題解決へ向けて互いに機能し合うよう組織化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営委員会、現教推進委員会、生徒指導委員会を設置し、各組織からの提案を職員会で協議し実施する。 <p>幼小連携担当者を組織に位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携の授業推進のため担当者を置き、内容、系統性、指導法などについて情報交換や研究の推進に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の推進委員会と兼ねているため相談時間の確保が難しいが、中心者が案を立て提案し時間短縮を図るなどの配慮が必要である。
さぬき市立 鴨部小学校	<p>変化に柔軟に対応できる校務分掌組織を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働管理、衛生管理、子育て支援、セクハラ担当を組織に位置づけをする。 ・現教推進委員会を設け校内現職教育の充実を図る。 ・学校ホームページを公開するに当たってホームページ管理者をおき、データの更新、メールの点検等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権同和教育研修の具体的な内容を児童や学校の実態、職員のニーズに応じて決定することができた。 ・管理者だけでなく、教職員の全体の資質向上のための職員研修を行うことが課題である。
さぬき市立 小田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援・セクシャルハラスメント担当を組織上に位置づけ、職員の勤務態様の健全化を進めている。 ・衛生管理・防火管理を教頭の職務に加え、危機管理について万全を期すようにしている。 <p>幼小・小・中連携教育の推進担当を組織上に位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小・小連携については、低学年教員から担当を選任し、交流学習活動の改善を進めることとしている。小・中連携については、高学年教員から担当を選任し、児童の進学に際し、きめ細かな連携を図り、児童の指導に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前だけの分掌とならないために、日頃から職員への周知、徹底を心がけ、共通理解を図りながら進めることが大切である。 ・市教委あげでの取り組みである異校種間交流体験研修事業による幼稚園との交流を通じて、今後、幼小・小連携を適切に進めていく予定である。

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
さぬき市立 石田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の教育評価の際に、授業研究部会と実践研究部会の2分科会ごとに、来年度に向けての提案事項を作成しておき、新年度の校務分掌組織等を検討する時に、その提案を踏まえた原案を作成し、職員会で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育評価が次年度の教育計画の作成に生かしやすくなった。
さぬき市立 前山小学校	<p>校務分掌の整理・統合・新設の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、セクハラ、労務管理担当者を校務分掌に位置付け、その対応に向けて活動する。 ・学校課題（児童間の閉塞的な人間関係の打開）解決のため、交流学習担当者を決め、組織の中に位置付け対応を図っていく。 <p>広報担当を決め、PTAや各自治会との連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより「マエヤマ」の地区全戸へ配布する。 ・学校評議員制を組織に校務運営に関しても随時意見を聞く。 ・校長発行通信「校長室の窓」を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の小学校同士の交流学習が円滑に実施できるようになった。そのことが、児童が中学校へ進学してから円満な交友関係を築く上で大変有効であることが分りかけている。 ・学校の取組みを広く情報公開することで、地区からの協力が得やすくなっている。 ・様々な視点から学校運営を円滑に進めることができていく。
庵治町立 庵治小学校	<p>職員一人一人の校務分掌の意識化を図る。</p> <p>本校は、前年度まで学校評価を学期末ごとに実施し、改善すべき点は次の学期で改善していくようにしていた。しかし、評価の視点が明確でなかったために、思いつきの評価であったり、一部の職員の意見であったりという実態であった。評価の視点が明確で、全職員の意見が反映できれば、今まで以上に校務分掌に対しての意識化が図れるのではないかと考えた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年度始め、具体的な到達目標を設定し、教育計画を作成した。 2 1学期末に、全職員が教育計画全ての目標に対して5段階評価を行った。その際、評価点の低いものに対しては、長期休業中の現教の時間に話し合う時間をとった。学年団で実態を洗い出し、改善案を考えた後、全職員で学校としての取り組みを共通理解するようになった。 3 2学期末に、再度全職員で評価を行った。1学期末の評価点が低かった項目についての改善策の効果も評価した。1学期末と2学期末の評価点の違いにも注目し、評価点が低い項目について、3学期に取り組める努力事項の話し合いを行った。 4 2回の評価と改善策を生かして、2学期末までに次年度の年間計画を作成し、ファイル化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育計画に対して、全職員が評価を行うことで、分掌への意識が高まった。 ・学期ごとに評価を行い、改善策を話し合うことで、早期対応ができた。 ・年間計画目標をより具体化しようという意識が高まった。
丸亀市立 郡家小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育や環境教育、ボランティア教育など、新たな課題に対応できる校務分掌組織の充実を図る。 ・職員の特性を重視した適材適所の校務分掌組織にする。 ・学年主任を中心に学年団で課題や問題に取り組み、協働的な組織運営を重視する。 ・委員会やクラブ活動については、複数で担当するように編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教育課題に適切に対応し、児童に新しい資質を育てるため、教師の課題意識を明確にする。 ・一部の者に過度の負担がかからないようにしたり、年度によって引継ぎを円滑にしたり、意欲を持って各分掌に取り組めるようする。分掌によっては、一人一役、複数制にする。 ・学年団研修を週日課に位置づけ、各学級の取り組みや行事などについても相談して適切な対応ができる。 ・出張や緊急の場合にも、委員会やクラブ活動が円滑に実施できる。
坂出市立 加茂小学校	<p>例年通りの分掌から、学校課題を見据えた分掌に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関しては、全校組織「子どもを見つめる委員会」を核として共通理解を図る。そして、具体的な事項に関しては、それぞれ関係の職員が小回りのきくサポートチームを組織して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前だけが入っていたような分掌はなくした。
普通寺市立 中央小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の実現に向けて、教職員の意見を聞き、学校経営全体と一人一人の教師の担う各教育活動を連携させたり、調整させたりできるように配慮する。 ・学校の課題の変化に対応しながら、評価していくようにする。 ・組織図にとらわれないで、分掌内容を明確にしたり、校務処理の過程を示したりしておく、担当者によって、新たな動きや働きが期待できるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職と教諭・講師等の職員との間での校務分掌理解の相違を生まないように、分業と協業関係に困難なことが生じないようにすることが大切である。

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
国分寺町立 国分寺南部小学校	<p>主な校務分掌のグループ化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務・現教・生徒指導の分掌について、主任を中心とした3人体制をとった。 	<p>グループ化による成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌の内容について、相談することができ、内容的によく練れたものが提案できる。 ・複数の目で点検することができるので、間違いが少ない。(週行事予定等) ・仕事の役割分担ができ、一人に負担がかかり過ぎることがなく、効率的である。(特に年度始めの時間割作成)教務部(校内と校外に分けている。)生徒指導部(3部会のキャップになり、それぞれの部会のまとめ役となる。)現教部 ・主任を助けたり、相談・役割分担することにより、その分掌の後継者を育てることができる。
綾歌町立 栗熊小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・セクハラ、児童虐待問題等担当者など時代の要請によって必要になった分掌を新しく設置した。 ・小規模校であるが、課題解決が多い分掌や、後継者育成等から考えて、主と副の2人の担当者を配属した。 ・分掌担当者与管理職が校務分掌実施上の運営や改善点、課題等について話し合う機会を定期的にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者がはつきりしてくると、教職員への周知等が適確にできるようになった。 ・副になった担当者の自覚が高まり、次年度の主任への移行がスムーズにできた。
満濃町立 四条小学校	<p>教職員一人一人の校務分掌を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務運営の組織表や教職員一覧に担当分掌を明記し、各校務の担当者を明確にすることにより、学校運営の円滑化を図る。 ・担当分掌ごとに仕事の内容(起案・提案・実施・評価等)を記録に残すことによって、担当分掌の一年間の仕事を明確にする。これにより、校務運営組織の見直しや精選も行う。 <p>学校の情報公開を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの作成担当者を位置付け、学校の方針や子どもたちの学習状況について、積極的に公開する。また、担当者の計画に従って、各教育活動の責任者が担当ページを作成し、全職員が関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の分掌が組織表に位置付けられていることで、組織の一員としての意識化が図られた。 ・分掌の責任者を明確にすることで、責任感が強くなりスムーズな運営がなされた。 ・昨年度からリニューアルしたホームページをその都度更新することができている。
観音寺市立 観音寺東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導部、生活指導部、保健体育部の各部で立案したものを企画委員会で図り、職員会で提案する。 ・校内サポート体制のシステムを養護教諭を中心とし整備する。 ・提案文書の起案は、教務 教頭 校長とし、教師の指導力向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事に向けての事前の部会で昨年度の記録や反省をもとに改善した取組を行っている。 ・問題をもつ子への対応として、担任が一人で抱え込むことなくサポート委員会(にじの会)で話し、全員で対応策を考え、協力し合って指導に当たっている。 ・起案も多数の目でチェックできる。提案も工夫に心がけるよう取組んでいる。
観音寺市立 常磐小学校	<p>生徒指導部会での危機管理体制を見直す。</p> <p>本校では、平成14年度より危機管理マニュアルを作成し諸問題の予防及び解決に当たっている。</p> <p>校務運営における課題は、「組織運営上の問題」と「情報の共有の問題」が課題となっている。ここでは、不登校及び非行傾向の児童に対する「初動システム」として、校内外での取組に活用している。</p> <p>【危機管理マニュアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校諸問題の発生 発見(発見マニュアルの活用) 対策室(管理職・担当・担任) 危機管理組織 生徒指導 不登校対策委員会 各対策部(担当部員) 子育てパートナー会議(管理職・担当・保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校問題の解決を困難にしている要因が明確になった。 ・危機管理マニュアルの作成は職員の危機意識を高揚させることができた。 ・不登校問題を解決するためには担任や保護者の抱える問題点について話し合うことが求められる。そのことなくしては解決しないことが理解できた。 ・関係者での対策会議の必要性と重要性は、予想以上に感じられ共通理解のためには不可欠なものであることがわかった。根本的な解決方法として位置付けることができた。 ・初動システムの必要性は理解するも、自分が担任でない場合危機意識が薄い傾向になる場合がある。
観音寺市立 柞田小学校	<p>研究組織と校務分掌の一体化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌を決める時、できるだけ職員の専門性や特性を生かし、幅広く対応できるように編成する。 	<p>研究のための研究でなく、研究が日常化・具体化し、子どもの姿で成果をみることができる。</p> <p>職員の専門性を生かすと幅広い柔軟な対応ができる。</p>
観音寺市立 豊田小学校	<p>教職員一人一人の校務分掌を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌は、大きく管理・研究・指導・渉外の4つに分けている。それぞれに教職員の分掌を1つ以上割り当て、軽重の均一化を図っている。 ・研究教科等については、研究の深化を図るために一人2種を選択し、それぞれには主任制を置き、研究の推進役にさせている。 ・指導部においては、学習指導・保体指導・生徒指導の3つに分けているが部会の運営をスムーズにするためにその内容を統合・整理している。 ・校務分掌が機能しているかどうかについて学期末には評価・検証しながら推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の分掌を自覚し、責任と協働の動きができている。 ・責務が慣れで行われることがないように、事務分掌の変化を持たせることによって、活性化を図っていく必要もある。

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
詫間町立 粟島小学校	<p>本校は、離島のへき地1級校である。児童3名、教職員4名（校長・教頭・講師・事務）の極小規模校である。児童全員が留学制度による転入生であり、うち2名は島外から通学してきている。</p> <p>重要な分掌は、複数あるいはローテーションにあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数が4名、しかも在職年数は短い、という状況ではあるが、特に、管理に関する分掌（公文書・予算・表簿・備品・安全等）は校長も含めて2名であたる。また、安全点検も遊具は全員で、その他は固定化を防ぐためにローテーションで行う。 	<p>一人の分掌事務は、あまりに膨大であり、しかも初めての分掌も多い。事務に慣れること、効率化を図ること等が課題である。</p>
仁尾町立 曾保小学校	<p>校務分掌組織の見直しと改善を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3指導部（研究部、学習指導部、特活指導部）の中の研究部（現職教育）を学習指導に統合することで、2指導部にした。 ・分担にペア制を取り入れた。 ・変化に柔軟に対応するために、学校評議員や不審者対策等の組織ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌組織を簡潔で分かりやすいものにして、教職員の役割がはっきりと自覚できるようになった。 ・ベテランと若手を組み合わせ、見習いの準備期間として位置づけ、異動に対応しやすくなった。 ・校務分掌の中には固定的な部分と、変化に柔軟に対応していく部分があり、重複しないようにしながら、十分機能しているか常に検討が必要。
豊浜町立 豊浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内容の明確化・具体化をねらうと、細分化せざるを得なかったが、一方、各指導部の主任以外のメンバー構成や各部門内の分掌は、各部が運営しやすく工夫するよう任せている。 ・校務部については、その仕事に精通したベテランと新任を組み合わせた複数制としている。 ・学校課題解決・教育改革の推進の視点で分掌の変更・創設、縮小・拡大を考え、柔軟に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の責任と部の協力の両面から遂行している。 ・協働する機会が増え円滑な移譲や後継者育成になった。 ・その部署は強化され、競い合っている。
大野原町立 五郷小学校	<p>三指導部会を二指導部会に改編する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来より学習、生活、保健の三指導部会が学校行事や指導全般について企画検討をして、職員会に提案していたが、職員数が少ないためうまく機能しなかった。そこで、学習・保健指導と生活指導の2つに改編した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定的でない組織（チーム）なので、臨機応変に対応できる。問題が明確で目的意識がはっきりしているため、的確で集中的な対応ができ、効果があがった。ただ、チームが動いている期間の関係者への負担は大きくなる。

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(中学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
高松市立 一宮中学校	<p>課題解決に向かって、分掌を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セクハラ（生徒・職員）担当として教頭、養護教諭配置し、昨年度から分掌に位置づけている。 ・本年度は更に相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・停滞しがちな分掌の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教頭を担当のリーダーにおき気軽な雰囲気、相談しやすい雰囲気に配慮する。 ・学校評価を各学期に行い、相互評して、活性化につなげる。 <p>（校務分掌の効率化、各担当間の連携・協力）</p>
高松市立 香東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課題に対応できるよう、指導面での校務分掌組織の見直しを毎年行っている。ここ3年間については、総合的な学習の時間に関わる部会と読書活動の推進に関わる部会を組織に位置づけ、効果的な教育活動の推進に向けて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌組織は13年度に大きく改正をし、合理的な組織になっていると考えている。ただ、組織を効果的に機能させるための主任の意識付けや、能力の開発が今後の課題である。
高松市立 古高松中学校	<p>校務分掌組織については固定的に考えず、変化に対応して絶えず改善を図るものとして編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織をできるだけ統合、単純化して編成し、分掌の追加・削除の容易な形態とする。 ・学校評価で、自分の分掌とその他の分掌において運営上の問題点等について評価・反省し、その結果を次年度の組織編成の資料とする。 ・学校を運営しているなかで追加・削除の必要性の分掌があればその都度記録を残し、次年度の組織編成時の参考とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ柔軟な対応ができてはいるが、新学習指導要領完全実施の中で教育目標や地域の事情に応じて調和のとれた学校運営がおこなわれるにふさわしい分掌組織になっているか検討を定期的に行いたい。
東かがわ市立 白鳥中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの引き揚げに伴い、不登校生徒や問題を持つ生徒についての相談やサポート活動を補うため、学級担任との連絡・報告・相談を密にし、校内サポート体制や適応指導教室との連携をさらに強化した。 ・少人数学習（数学・理科）・小中連携（数学・算数）による授業を実施した。 ・市教育委員会の呼び掛けにより、開かれた学校づくりの一貫として、新しく家庭教育学級の開設を準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30日以上欠席者が減少。適応指導教室との連携により、新規不登校生徒への問題把握や共通理解・対応が早くから行われ、当該生徒の欠席日数が減少、再登校が早くなった。 ・生徒の理解度は向上したが、出張等による時間割変更が困難となり、管理補欠が増えた。
さぬき市立 大川第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望だけでなく、経験年数、個性をもとに校務分掌を分担した。また、生徒指導関係・特活関係・記録関係は3人体制で取り組み、各学年1人は担当することにした。 ・生徒会、ゼミナールなど本校の特色ある活動については複数担当とし、転任しても引継ぎがスムーズに行くようにした。 ・重点的な取り組みを行うためのプロジェクトチームを新設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の負担のバランスが良くなり、1人の教師に仕事が集まることもなく、教職員全体で取り組めるようになった。
さぬき市立 志度中学校	<p>分掌が機能するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣例にとらわれない計画の起案と実践（若年者の発想を大切に、計画時の関係者との事前協議） ・適材適所的な分掌の決定（希望と意欲の重視） ・学校課題、時代のニーズに合った分掌（生徒指導や危機管理、現職教育、教科指導を重点に） <p>学校経営参画意欲を高揚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任層の意欲化 学年主任、教務主任、生徒指導主事、現教主任等の発言の場の工夫やリーダー性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人の意欲が増し、責任を持って分掌事務にあたることができた。 ・教員の思い切った発想が期待される。 ・学校課題についての共有意識が高まりつつある。（解決に向けての方策等） ・ベテラン教員と若年教員をペアにすることにより、お互いの刺激につながった。 ・分掌のより効率的な精選も必要になってきた。（継続性のない分掌の再考）
香川町立 香川第一中学校	<p>学校課題を明確にし、個々の分掌を実践的内容に再編成する。</p> <p>〔教務部〕 教務を中心に各学年に教務部を置き、学年の行事に対応した授業変更を行うなど、学年の独自性を生かしながら授業数の確保に努める。</p> <p>〔主任会〕（校長、教頭、学年主任、生徒指導主事、養護教諭、事務主任） 毎月曜日の時間割の中に位置づけ、学校全体の運営・学年団の運営・予算の配置や執行・生徒指導上の問題などについての方針や対策を明確にし、実践的な共通行動を図る。</p> <p>〔教育相談部会〕 スクールカウンセラーや適応指導教室の担当者の参加協力を得ることで、不登校傾向生徒の個々の姿を明確にして、それぞれの生徒に応じた対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の独自性を生かした運営と授業数の確保が工夫できたが、他学年にまたがる教師については学年間の調整が必要である。 ・事務主任が予算面のデータ示してくれることで、教育活動と経理面との不可分性を認識するようになった。 ・適応指導教室へ通いながら別室登校できる生徒が現れるようになった。また、適応指導教室の担当者を通じて保護者からの声も寄せられるようになった。

校務分掌の整理、統合、新設などの工夫(中学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
丸亀市立 本島中学校	<p>校務分掌の整理、統合、新設などの工夫を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程、学校週5日制、2学期制、丸亀教育等が生徒にとって有意義なものになるよう、創意と工夫が必要となる。そのために対応できる柔軟な組織が必要で、改善を行った。 ・「学力向上対策」・「読書指導」・「男女共同参画」を新設する。 <p>平成15年度の重点努力事項の達成のため指導部門で、「学力向上対策」・「読書指導」・「男女共同参画」担当を新設した。「学力向上対策」は、指導法の研究・家庭学習のあり方・保護者との連携などについて、小規模校の特性を生かし個々にあった指導法の研究を行う。「読書指導」については、朝の学活での読書指導・「読書のつどい」などを実施する。「男女共同参画」については、総合的な学習の時間でのジェンダーフリーの授業実践や交流会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジム・ネット」担当を新設したので、事務処理が正確に手早くでき、事務職員との連携がうまくいっている。 ・生徒会常任委員会が統合され、活動がはつきりし、また各月の生徒会目標が絞られ意識が高まった。
多度津町立 多度津中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの校務分掌には正副の教職員を位置づける。 ・学校教育目標や教育方針に基づき、全職員参加の3分掌を新設する。 <ul style="list-style-type: none"> * 「いい授業づくり」グループ * 「いい集団づくり」グループ * 「いい体験づくり」グループ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な人事異動による年度始めの、校務の停滞を防ぐことができる。 ・一部の主任の企画だけでなく全職員参加型であるため、効果が顕著に表れると考えている。
仁尾町立 仁尾中学校	<p>特別委員会として、学習指導委員会、生活指導委員会の2部会を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習指導や生活指導の取り組みだけでなく、校内研修の取り組みについても進められるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会の協議を経ることなく、即、生徒への活動におろすことができるので、機能的である。また、小規模校であるため、他の職員への伝達、周知は比較的、スムーズにできている。 ・反面、原案を十分に煮詰めることができないまま、協議することも見られ、もう少し、会の運営の仕方そのものを見直す必要がある。
豊浜町立 豊浜中学校	<p>See - Plan - Do - Seeのサイクルで、企画力の向上を目指す。</p> <p>【前例踏襲とせず、前回の課題を企画実の改善に生かす】</p> <p>企画案作成までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題をどう克服しようとして、どこをどう変えたのかを企画実に入れる。 ・ねらいを明確にする。 ・協働体制で実践できるように役割分担を工夫する。(教師の特性が生かせるように配慮) <p>企画案作成までに、校長・教頭が相談に乗る。</p> <p>【企画委員会で提案 修正 職員会で提案検討 実践】</p> <p>実践後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価だけでなく、職員からの評価も取り、記録に残す。 ・場合によれば、保護者や地域の評価ももらう。 ・評価はファイルし、次回に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者は積極的に企画案づくりに取り組み、工夫するようになった。 ・特に若年職員が創造力を発揮するようになった。 ・評価を次回に生かす大切さが職員に理解され始めている。 ・分掌によっては、どうしても前例通りとなりやすい。 ・どうすれば教育改革の流れを全職員が理解し、共通理解で実践できるかが課題である。